

南会津

袖沢ミチギノ沢下降～

「御神楽沢」10月11-13日

㊀菊地・白土・神戸・志満(記)

10月11日(土)

前夜の満天の星空に裏切られ今にも雨が降り出しそうなどんよりとした曇り空「とほほ・天気予報どおりか」車を会津駒ヶ岳登山道入口に止め路線バスで小豆温泉へと向かう。窓明山登山口の駐車場では沢屋らしきパーティーが身支度をしていた同じルートであろうか。バス停のすぐ脇にある登山道を歩き始める。さほどたいした斜面ではないけれど久々の登山道での登りはダル～雨は降ったり止んだりのだがこの時期の雨は身にしみる。

保太橋J Tを通過し、スタートしてから3時間で三岩避難小屋に到着。

ここで沢支度をして小屋横の分岐点を窓明山方面へ間もなく最初のコルに着く。ここからミチギノ沢へ降りる予定だったけれどかなりの密ヤブで突入する気にもならず、次のピークを越えたコルからにしようと思いを進めた。辿りついたコルは湿原が広がっていて草紅葉が美しいその中を突きって下降開始！と気合を入れるけれど思ったほどのヤブではなく10分くらいで沢型に出る事ができた。



<ミチギノ沢に向かって突撃！>

ミチギノ沢は雨のせいかわは濁っていてあまり綺麗な沢とは言えないけれど沢を囲んでいる原生林は赤や黄と色化粧をし霧がぼかし効果をあげて幻想的な風景だ「素晴らしい！」その先とくに困難もなく順調に下降していったけれど1130mの二俣過ぎた辺りからゴルジュとなり、高捲きや懸垂でかなりの時間がかかってしまう。時はすでに16時を回っていてあと1時間もすれば辺りは暗くなって下降が困難になる。しかしこのゴルジュを抜けないと今夜の酒宿(酒!?)がない。焦るけど慎重さを失わないよう気を引き締めていく。特に大きな滝はないけれどほとんどが大釜のオプション付きで後半の小滝連瀑帯は補助ロープやザイルを出しての懸垂下降や残置ロープを伝って沢床に降り立ったりと大忙し。最後の3m滝は懸垂で降りた所が細かいスタンスでそのままトラバースして抜けなくてはならない。失敗すると釜にドボン！こんな時間に濡れたくはない緊張しながら微妙なへつりで抜けていく。みんな無事に生還！これでゴルジュが終わり溪相はいっきに穏やかになる。御神楽沢の出合はもうすぐだ。記録では出合に良いテン場があるようだがすでに暗くなっていて今は足元が見られる程度。時間が無い！早々にテン場を探し始めると左岸に広くて平らになっている快適な場所を見つける事が出来た。ラッキー

時は17時30分でヘッドランプをつけての巻き集めとなった。今夜はちらし寿司に途中で収穫したキノコの味噌汁。現地調達のお飯がやっぱり旨いね！焚き火は勢いよく燃えていたけれど冷え切った身体はなかなか暖まらず時折吹く冷たい風が寒さを増していた。寝不足と疲れで今宵は皆早くに眠りに就く。

明日は晴れますように



< セボン仔ガサ
他にナリク、ナリクを収穫 >

10月12日(日)

神戸さん食当の韓国モチ「トック」と野菜がたっぷり入った豪勢な豚汁を頂いてスタミナばっちり！今日はこの山行のメインとなる日だ。天気も良い。身支度をしていると4人パーティーがやってきた。小豆温泉で見かけた人達だもうすでに疲れた様子でここまで1時間半も歩いてきたらしい。テン場から80mくらい歩いた所で御神楽沢と出会う。ここまで尾根歩きに沢下降と行動時間11時間もかけてやっと辿りつく事が出来たそれだけに奥深い沢であり原生林がとても美しく輝いている。御神楽沢に入るといきなり通過困難で右岸を高巻く。水量の多さにやや圧倒されながら次々に現われる大釜や小滝を越え、2段15mを左岸から抜けると突如目の前に現われた大岩。大きな一枚岩がまっ二つに割れておりその岩の間を水が豪快に流れている。そうこれが御神楽沢名物の岩置だ。自然は長い年月をかけて芸術品を創り出していく原生林に囲まれたこのオブジェは自然だけが創る事が出来る美しさである。しばらく感慨に浸る。



こ

ここからは岩盤が発達した溪相を楽しみながら遊行していく。2段20mは右岸を巻きその先の2段25m、1段目は左岸を簡単に登り2段目は出だしの悪い側壁を残置シリガに助けられながら登っていく。アプローチが悪い沢だということにかなりの人が入っている様子でどの巻きもしっかりとした踏み跡やお助けロープがかけられてありこの沢の人気の伺える。しばらく歩くと両岸が開け大岩のゴロ帯になる。大岩を乗越すのはカッターイけれどこの辺りは開放的で明るく遊行していて気持ちが良い。魚影もよく見かる。大ナメ30m下部は左岸を軽快に、中間部からは右岸ここはザイルを出す。引き続きゴロ帯が連続しインゼルを超えた所でゴルジュ状となり連瀑帯が現われる。水流沿いには行けそうもないので左岸ルンゼから巻きに入る。しかし低い位置でトラバースするにも厳しくどんどん高みに追い上げられていった。ふと振り返ると紅葉の山並みが一望できて「うわあ～綺麗だ」なんて眺めている間に皆に置いていかれてしまった。最後は濃い笹藪の中をトラバースし沢床へ降り立った。ここで40分の時間を要し連瀑帯を一気に巻いた事になる。



10m

直瀑は細い淵になっていて近寄る事も出来ず左岸の階段状になっている所から巻いていく。



そ

ろそろテン場を探がさなくては・ムジナクボ沢出合 50m ほど手前の右岸に 2 箇所、平らで広く快適な場所があったけれど薪が乏しく断念。結局ムジナクボ沢を越えた左岸に整地すれば何とか TENT を張れるスペースを見つけ、石をどかして草を敷きつめて今夜の宿が完成！この場所は薪が豊富で早々に焚き火大宴会の準備が整った。今夜の夕飯は菊地さん食当でローリエ、シナモン、唐辛子などの香辛料と野菜がゴロゴロと入っている贅沢カレー。野食はカレーが基本で自然の中で食べるカレーはひときわ旨い！今夜の焚き火は今シーズン最後の焚き火になるであろう。名残惜しく日付が変わるまで焚き火を楽しんでいた。

13 日（月）

冷え込んだ朝を迎えた。外にあったザックに霜が降りていて沢シーズンの終わりを告げているよう。白土さんの「野菜たっぷりの煮込みラーメン（永谷園 お勧め）を頂いて今日

もスタミナばっちり 今回の山行は食事が豪勢で何よりも嬉しいね

ムジナクボ沢を分けてからは水量が減って穏やかな溪相となり源頭部の雰囲気は漂う。



<New フェース 神戸さんよろしく！>

その先は小滝の連続でそのほとんどが直登出来るから楽しい。3 段 20m イナズマ型の滝が現われる（これってイナズマ型？）ここは右のカンテから、続く 2 段 5 m は右岸を登り大岩を回り込んで沢床へ。1750m の二俣を過ぎたその先は右から左からと細かく沢が入ってくるけどここはしっかりと地形図で現在地を確認しながら本流をつめていく。1970m 1 : 1 で駒ヶ岳と中門岳の科尔へ突き上げる沢との分岐、ここからつめた方が早いのかも知れないけれど私達は頂上直下に拘り本流である左俣に進む（後で聞いた話だがこの科尔へ突き上げたパーティー曰くかなりの蜜蝋で厳しく時間がかかったとの事）本流はわりと楽なツメだったけれど最後は背丈以上の笹藪をかき分けること 15 分を津駒ヶ岳頂上近くの草原に突き上げ、歓声が上がった。その脇で木道を歩くハイカーが笹藪から飛び出てきた私達

を物珍しそうな目で見ていた。

『沢登りはめちゃ楽しいよ やって見ないかい?』



<お疲れ様でした楽しかったね >

11日： 小豆温泉 7:00~保太橋 J T 8:35
~避難小屋 10:05 (10:45 発) ~1725m コル
11:10~ミチギノ沢下降~ゴルジュ 15:40~
テン場 17:35

12日： テン場 8:30 ~御神楽沢出合 8:
45~岩畳 10:25~大ナメ 30m 13:40~10m
直瀑 15:45~ムジナ窪沢出合 16:00~テン場
16:30

13日： テン場 8:55 ~ 1750m 二俣 10:10
~稜線 12:13~会津駒ヶ岳 12:20~小屋 12:
35 (13:10 発) ~下山 14:55

【温泉】木賊温泉 共同浴場¥300
かけ流し お勧め。